



業界レポート

**将来への道標：
現代のサプライチェーンで
多面的自動化が果たす不可欠な役割**

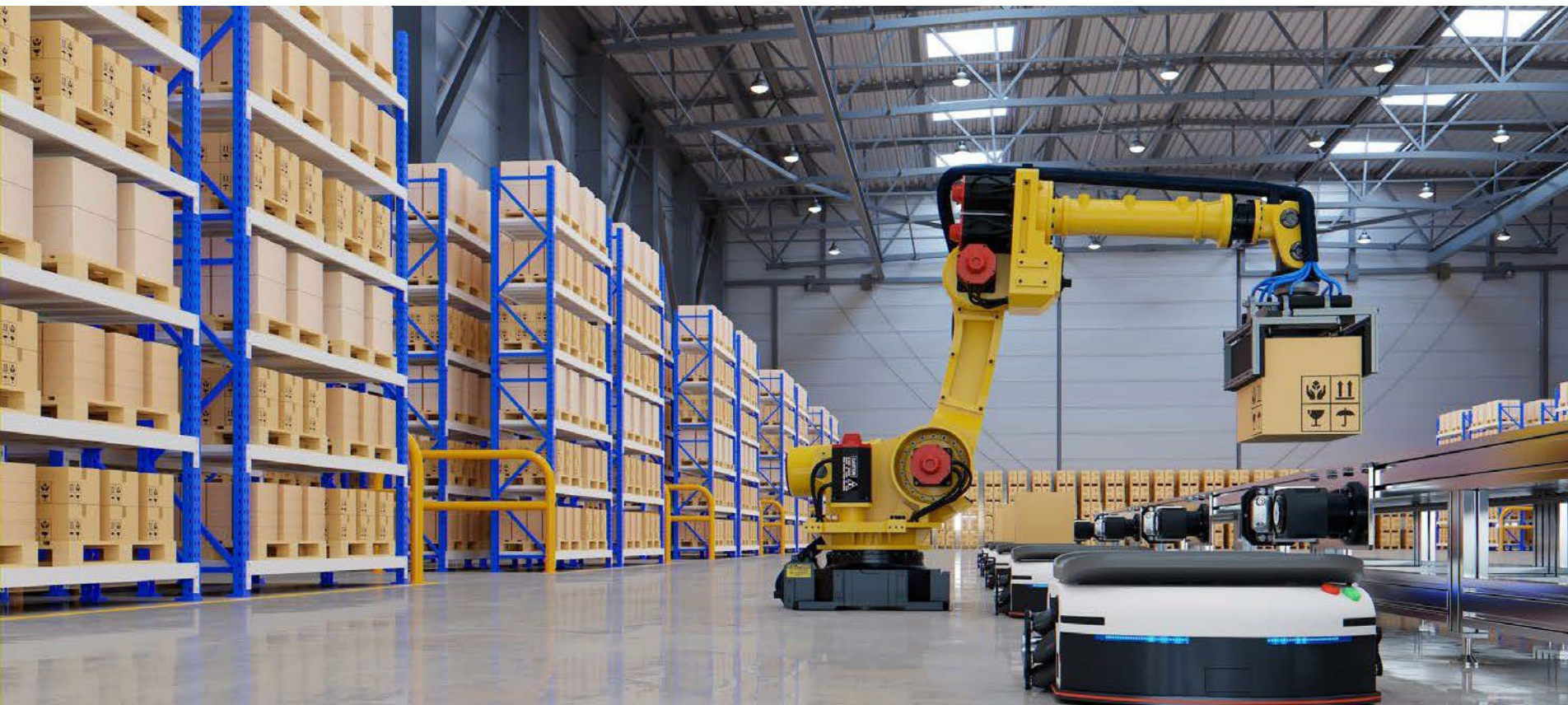
協力：



本報告書の対象読者

「将来への道標：現代のサプライチェーンで多面的自動化が果たす不可欠な役割」をご覧ください。現代の物流で自動化が果たす重要な役割を理解できます。本報告書の対象は、商品を市場に輸送する企業や担当部門（物流サービス業者（LSP）、小売業者、製造業者など）であり、以下に重点を置いています。

- 市況が進化する中で、適応力と即応性の向上に向けて自動化を活用する。
- 顧客体験と競争上の位置付けを強化する戦略ツールとして自動化を利用する。
- 高度な自動化により、企業や担当部門のサプライチェーンを変革して競争力を引き上げる。



本報告書で示された知見と展望を活用して、サプライチェーンと物流の自動化戦略を洗練されたものにしたり再検討したりしてください。読者が以下の状況にある場合、本書は不可欠です。

- 効率、適応力、および市場競争力にわたって業績の向上を目指している。
- 事業拡大の推進、サービス品質の強化、および業務卓越性の達成を自動化により実現できる方法に関して知見を求めている。
- 顧客中心の業務と効率的な物流業務を重視して、従来の物流モデルから革新的で自動化主導のソリューションへ移行する準備ができている。

それでは見ていきましょう。

将来に向けて俊敏で インテリジェントな サプライチェーンの形成

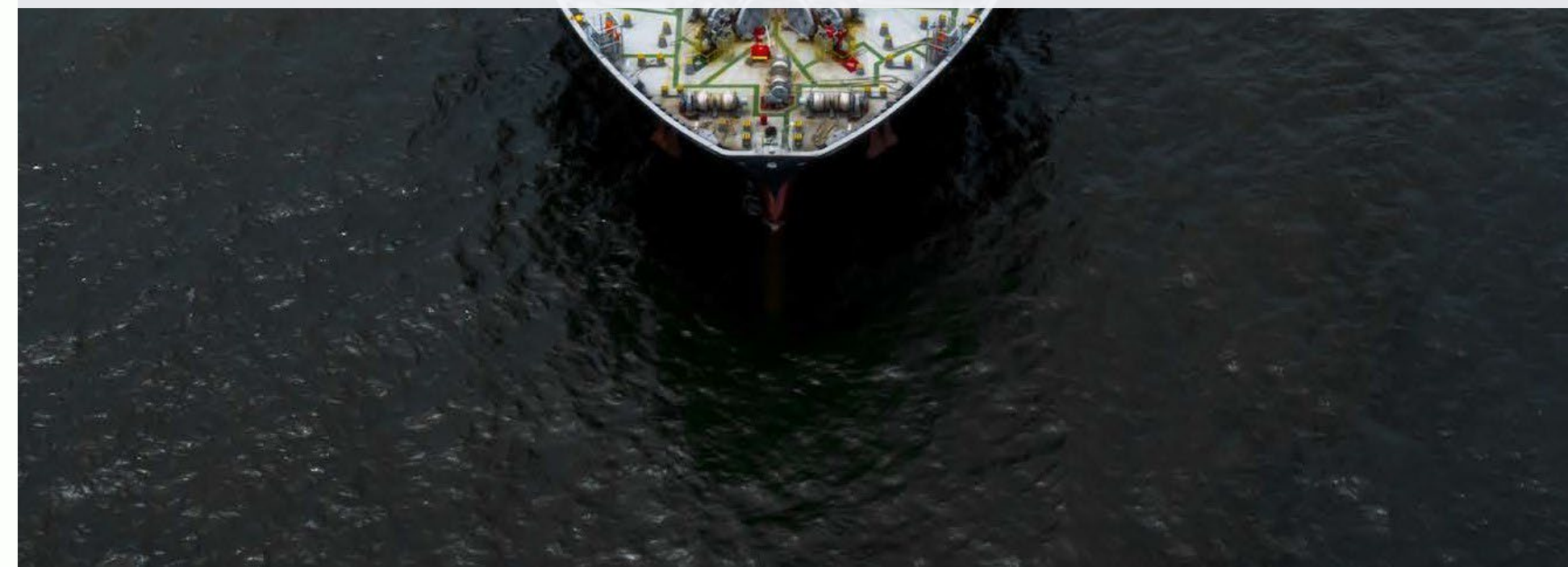
現代のサプライチェーンは、俊敏でインテリジェントな実体に進化する必要があります。これにより、市場の急速な変化と業務の複雑さに効果的に対応して、持続可能な競争力が確保されます。

- **戦略的な適応力**：現代のサプライチェーンは、市場のグローバルな変化から予見不能な課題まで、破壊的な変革に即応して調整する必要があります。これにより、変化の最中でもビジネスが成長する位置が確保されます。
- **競争力のある業務効率**：労働力の不足や原材料費の高騰などの問題が発生すると、効率的で適応力のあるサプライチェーン業務が、増大する圧力への効果的管理で不可欠になります。
- **顧客中心主義の強化**：調達から配送までのスピード、柔軟性、および透明性の強化、比類のない顧客体験の実現、市場での明確な優位性の創出では、現代のサプライチェーンが鍵です。



過去数年にわたって優先順位の上位にあった顧客中心主義や新たな製品技術革新よりも、サプライチェーンの順応性を優先する企業が**20%**以上増加する傾向にあります。

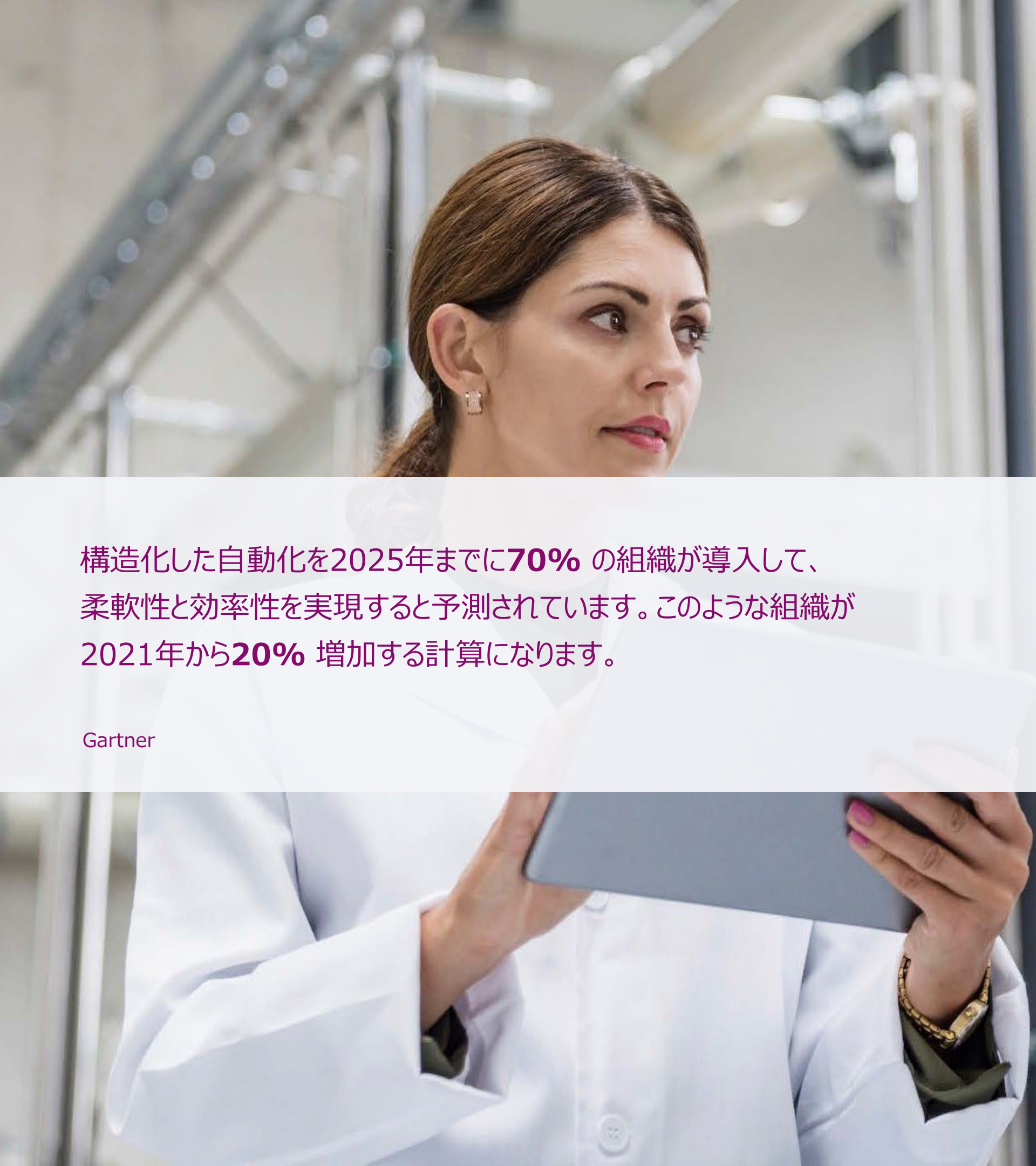
IDC



将来に向けて 基軸となる自動化

今日の急速に変化するビジネス環境で現代のサプライチェーンが適応するには自動化が不可欠です。これによって、俊敏性とインテリジェンスを備えるようになり、激しく変化する市場で競争力の維持に不可欠です。

- **適応力と順応性の強化推進**：自動化によって、サプライチェーンは破壊的な変革に迅速に対応してそこから回復する能力を備えるようになります。その結果、市況の変化や予見不能な課題が発生しても、シームレスに業務を維持して適応力を発揮します。
- **業務効率化に向けた合理化**：サプライチェーンでは、自動化によって効率が大幅に向上します。プロセスの合理化、リソース利用率の最適化、運用コストの管理により、強固で競争力のあるビジネスモデルの構築に自動化が効果を発揮します。
- **顧客体験の向上**：サプライチェーンにおける顧客対応の強化には自動化が効果的です。配送時間の短縮、業務透明性の向上、一貫性のある信頼性が実現されます。進化する顧客要望に対応するには、これらのすべてが重要です。



構造化した自動化を2025年までに**70%** の組織が導入して、柔軟性と効率性を実現すると予測されています。このような組織が2021年から**20%** 増加する計算になります。

Gartner

企業が避けるべき、 自動化に対する 近視眼的な捉え方

業界は、サプライチェーンでの自動化を明確に理解する必要があります。自動化に対する明確な視点は、採用と実用的な応用に向けて総合的な戦略を作り上げるうえで効果的です。

- **ロボットにとどまらない自動化**：自動化は単なるロボット化ではありません。インテリジェントで自律的な意思決定と合理化プロセスを目指して協調動作する複数のテクノロジーが関与しています。
- **自動化の核心にあるインテリジェンス**：真の自動化は、広範な企業データから得られたインテリジェンスを基礎として、エッジテクノロジーなどの技術革新の意義を重視しています。
- **ビジネス成果の最適化**：インテリジェントで独立した意思決定が可能なソフトウェアシステム、ハードウェアシステム、またはハイブリッドシステムにより、自動化でビジネス成果が向上します。



ビジネスリーダーの**89%** は、デジタル変革の目標を達成するうえで、
サプライチェーンにおけるプロセス自動化が「重要」または「きわめて重要」
と考えています。

Precisely



効果的なサプライチェーン 自動化に向けた基礎の構成

サプライチェーンで自動化の可能性を最大限に引き出すには、強固なデジタル基盤を構築して、インテリジェントな意思決定システムを採用する必要があります。このような手法により、広範なネットワークにわたって効率だけでなく即応性も確保されます。

- **デジタル基盤の構築**：企業は、サプライチェーンの全構成要素（資産、取引、関係者、対話など）をデジタル化して、自動化の強固な基盤を作り上げる必要があります。
- **スマートな意思決定システムの活用**：自動化したプロセスで情報に根ざした戦略的な意思決定を下すには、人工知能、機械学習、高度なアルゴリズムの統合が決定的に重要です。
- **ネットワーク全体にわたる業務の調整**：サプライチェーン全体で業務を調整するには、一元的な「運用頭脳」が不可欠です。これにより、シームレスで同期した業務が実現します。



サプライチェーンのリーダー**10人のうち8人**が、今後の5年間でデジタルサプライチェーンが支配的なビジネスモデルになると述べています。

MHI



自動化成熟度フレームワーク

この自動化成熟度フレームワークは、自動化を多面的な追求として見直すことの重要性を強調しながら、自動化のさまざまな段階のロードマップを示したものです。



Autonomous

自動テクノロジーの実装 (担当者とロボットの作業のスケジューリングや配送業者の選定を行う意思決定ソフトウェアなど)



Predictive

履歴データとほぼリアルタイムのデータを使用して将来のニーズとシナリオを予測し、事前対策的な意思決定と戦略計画を実現



Optimization

最も効率的な業務オプションと結果を特定して実施するソフトウェアを導入し、インテリジェントシステムを活用して物流管理を強化



Digitalization

従来のプロセスを合理化デジタルプロセスに変換し、単なるデータ変換にとどまらず、データ入力や記録管理などの作業を強化

先進的な自動化の基盤

自動化のあらゆる特質を取り入れるには、テクノロジーだけでは不十分で、理念が必要です。この理念は各種ツールの導入を導くにとどまらず、戦略的なビジネス目標および本質的な価値との整合を図るものです。自動化の複雑さに対処する企業では、以下の原則が不可欠です。原則に従えば、テクノロジーの進歩は人間の能力を置換するのではなく強化するものとなり、あらゆる技術革新によって顧客に明確な価値が実現します。

テクノロジーの進化

プロセスの改善や簡略化を検討することでプロセスを変革し、効果的で合理的な業務となるように最適化します。

人間の潜在能力の強化

自動化を利用して人的能力を強化して、戦略的な活動と革新的な作業に担当者が集中できるようにします。

順応性のあるシステム統合

市場で進化する要望に対応して将来も効果的な運用を動的に拡張して順応できる自動化ソリューションを採用します。

洞察力のある分析の利用

データを統合して分析し、スマートな業務意思決定に情報を提供します。これによって、継続的な改善と技術革新の風土を醸成します。

消費者重視の技術革新

自動化の取り組みによって顧客体験が強化され、サービスの改善と関係の深化を図ります。



ここに示した手法で 自動化を目指す企業が得る 明確な利点

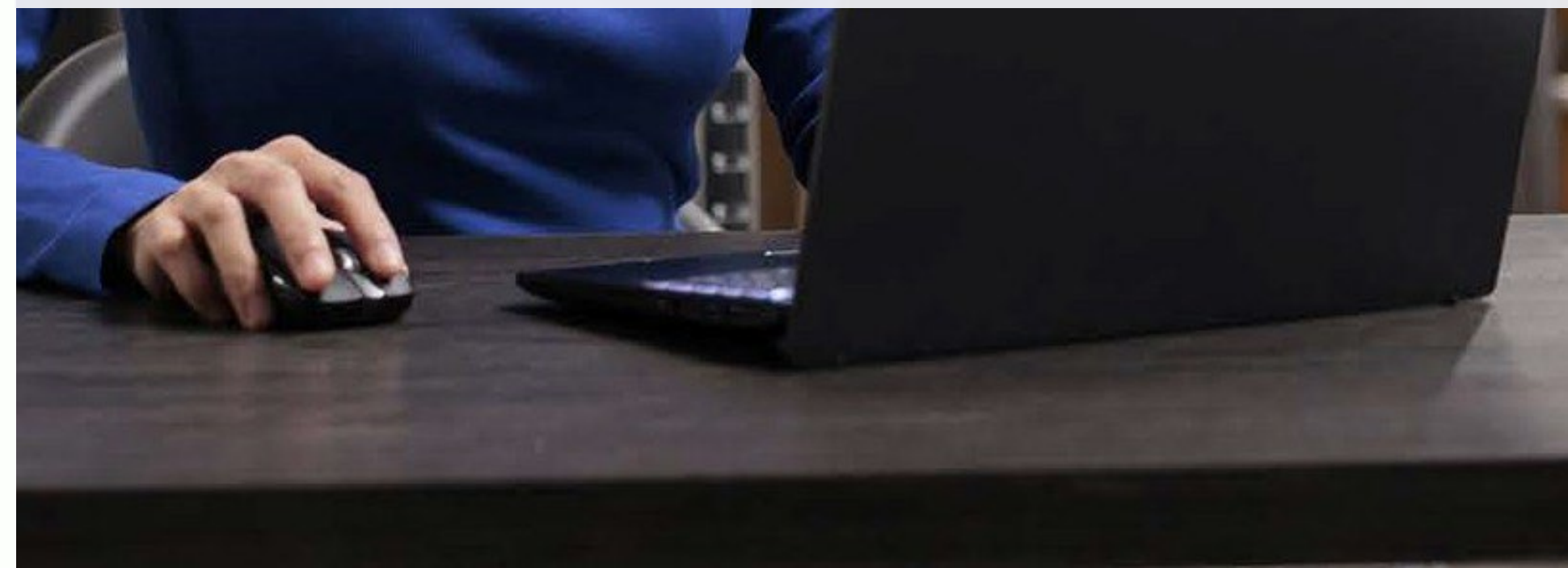
製造業、小売業、LSP などの現代企業は、高度な自動化の変革的な能力を認識しています。この手法を採用することで、業務のさまざまな面で著しく向上します。

- **業務の刷新と効率の改善**：自動化では、効率と精度に業務の刷新を組み合わせます。これによって、業界で新たな標準が設定されるので、人件費とミスを削減して、収益と業務の質に好影響を残します。
- **よりスマートなサプライチェーン業務**：データ分析を通じて戦略的な意思決定を容易にし、市場動態の急速な変化に遅滞なく対処します。
- **将来への対応力と順応性**：破壊的な変革でもシームレスな業務と順応性を確保して、持続可能な成長を育み、将来の業界リーダーへの道を拓きます。



小売業者は**2025年までに日常作業の70%**を自動化して、業務効率の強化、コストの削減、および収益の増加に効果的なテクノロジーへの投資を優先することを計画しています。

Incisiv



サプライチェーン管理における 変化の促進：包括的な 自動化に向けて

サプライチェーン管理が進化している状況下では、包括的な自動化の採用がきわめて重要です。個々のテクノロジーにとどまらず、デジタル化から自律システムにまで至る自動化の総合的な視点を持つことが重要です。効率の強化、顧客体験の改善、および持続可能な成長の推進では、包括的に自動化したサプライチェーンへの移行が鍵です。

包括的な自動化ソリューションの統合に向けて現時点で実施する手順によって今後の競争力が左右されます。これによって求める作業内容は、現在の自動化環境を評価し、成長の可能性のある領域を洗い出して、ビジネスの前進を促進するテクノロジーを戦略的に導入することです。

進化を止めない物流環境で立ち止まることは許されないと肝に銘じる必要があります。今後は自動化が主体となります。今は行動を起こすときです。





Incisiv 社は経営幹部どうしのネットワークからなる企業で、消費財産業の経営陣がデジタル変革に対処できるよう、業界の知見を提供しています。Incisiv 社は経営陣向けの厳選された知識、デジタル成熟度のベンチマーク、デジタル変革に関する規範的な知見を消費財産業とテクノロジー産業の顧客に提供しています。

incisiv.com

協力：



Blue Yonder 社は、サプライチェーンのデジタル変革で世界的なリーダー企業です。世界中の小売業者、製造業者、物流業者が、計画からフルフィルメント、配送、返品に至るサプライチェーンの最適化で Blue Yonder 社を活用しています。Blue Yonder 社は、AI を組み込んで相互運用可能なサプライチェーンソリューションを提供しています。このソリューションは、統合プラットフォームとデータクラウドを通じてエンドツーエンドでつながり、複数の業務機能でリアルタイムの連携を実現します。これにより、俊敏な意思決定、顧客満足の上昇、収益性に優れた成長、これまで以上の順応性と持続可能性を備えたサプライチェーンをサポートします。

詳細については blueyonder.com/jp/ja をご覧ください。